

備前市事務事業評価表

事業の概要		コード	01-01-10-06
事務事業名	農業集落排水施設管理運営事業	根拠法令・要綱等	浄化槽法 水質汚濁防止法
事業開始年度	平成5年-	問合せ先	下水道施設係
総合計画	大項目 基本目標	担当事務(室)	下水道施設係
	中項目 基本施策	職・氏名	施設係長 福田昌晃
	小項目 施策	電話	0869-63-2330

事業の実施	
対象 (誰・何に対して)	排水施設使用者及び不特定多数
目的 (何のために)	農村生活環境の改善をはかり、併せて公共用水域の水質保全に資する。
行政活動 (どのような方法で)	農村集落排水施設2ヶ所及び管渠、マンホールポンプ設備の維持管理。
事業の意図する成果 (どのような状態にしたいのか)	排水施設の処理機能を維持し、処理水の水質を良好に保つ。

事業の実績						
	実施項目	単位	平成17年度実績	平成18年度実績	平成19年度実績	
活動実績	処理水量	m3	10,627	24,978	41,870	
	処理水質BOD値	mg/l	11	9	11	
	水洗化率	%	100	61	71	
	接続人口	人	74	389	444	
	大股地区河川BOD	mg/l		1	1	
	事業費	直接事業費	千円	15,699	26,200	29,094
		人件費		1,780	2,055	467
		事業費計		17,479	28,255	29,561
	財源	国県支出金	千円			
		受益者負担				
市一般財源			17,479	28,255	29,561	
	必要人員	人	0.25	0.32	0.06	
	結果指標名	単位	平成17年度実績	平成18年度実績	平成19年度実績	
結果指標	処理水量	説明	処理場で処理した汚水量			
	結果指標量	m3	10,627	24,978	41,870	
	対前年比	%	-	235.0%	167.6%	
	活動コスト	円	17,479,000	28,275,000	29,581,000	
	単位当たりコスト	円	1,644	1,132	706	
結果指標	接続人口	説明	処理場を利用している人数			
	結果指標量	人	74	389	444	
	対前年比	%	-	525.7%	114.1%	
	活動コスト	円	17,479,000	28,275,000	29,581,000	
	単位当たりコスト	円	236,202	72,686	66,623	

事業の成果			
成果指標名	BOD値	式又は説明	生物化学的酸素要求量：水中の有機物が微生物の働きによって分解される時に消費される酸素量。大きい値ほど汚れが甚だしい事を示す。
	17年度	18年度	19年度
成果指標量	11.00	9.00	11
対前年比		81.82%	122.22%
到達目標値	20mg/l	到達目標年度	毎年度

事業の目的、対象、内容を考えてから目的・効果の評価を行って下さい。

事業費や単位当たりコストに留意しながら効率性の評価を行って下さい。

事業の目的やその数値目標である成果指標に留意しながら有効性の評価を行って下さい。

(平成19年度事業)

事務事業の評価			
妥当性の評価	目的	<input checked="" type="checkbox"/> 閉法令等で目的が定められており妥当である(法律・政省令) <input checked="" type="checkbox"/> 現在の市を取り巻く環境からも目的は妥当である <input type="checkbox"/> 事業開始当初の目的は、ほぼ達成されている <input type="checkbox"/> 事業開始当初の目的から変化している	妥当性評価<A-E> 課題認識 B
	対象	<input type="checkbox"/> 対象を見直す必要がある	
	行政活動	<input checked="" type="checkbox"/> 事業の目的を達成するためには、現在の行政活動以外に方法はない <input checked="" type="checkbox"/> 事業の意図する成果 <input checked="" type="checkbox"/> 現在の市を取り巻く環境からも事業の意図する成果を見直す必要はない	浄化槽法、水質汚濁防止法等の規定に基づき、公共用水域の水質保全及び農村生活環境の保全を図るため、汚水処理施設の管理を行う。
	市民ニーズ	<input type="checkbox"/> 市民、団体などから要望・要請の強い事業である <input checked="" type="checkbox"/> 本市が関与しなければならない事業である <input checked="" type="checkbox"/> 事業を取り止めた場合の市民への影響は大きい <input type="checkbox"/> 事業を取り止めた場合の市民への影響は克服できる範囲内である	
効率性の評価	コスト	<input type="checkbox"/> コスト削減の努力をしており、低減余地は大きい <input checked="" type="checkbox"/> コスト削減の努力はしているが、低減余地は小さい <input type="checkbox"/> サービスを低下させずにコストを低減することは困難 <input type="checkbox"/> 受益者負担額を見直す余地がある	効率性評価<A-E> 課題認識 B
	手段	<input checked="" type="checkbox"/> サービスを維持するためこれ以外、他に手段が見当たらない <input type="checkbox"/> 最適な手段を求めて職場内で改善に努めている <input type="checkbox"/> 現在の手段は過剰なサービスのため、改善の余地がある	大股清水苑に加え平成18年度に新庄浄化センターが供用開始し、処理水量、接続人口が増えたため単位当たりコストは下がった。今後も新庄地区の接続人口の増によるコストダウンが見込めるが、一方大股清水苑の修繕によるコスト増の要因も存在する。
	職場	<input checked="" type="checkbox"/> 事業に関して事務改善等作業効率の向上に努めている <input type="checkbox"/> 事業に関するOJT(職場研修)は行われている <input type="checkbox"/> 事業実施について、職員の意見・要望が反映されやすい	
有効性の評価	目的達成度	<input checked="" type="checkbox"/> 成果指標の目標値は目標年度に達成できそうである <input checked="" type="checkbox"/> 成果指標は前年度より向上している	有効性評価<A-E> 課題認識 C
	成果向上の可能性	<input type="checkbox"/> 成果は向上しており今後も向上する見込みである <input type="checkbox"/> 今後、成果指標は向上する余地がある	
	市民参画度	<input type="checkbox"/> 事業について積極的に情報提供している <input type="checkbox"/> 事業実施等で積極的に市民意見を反映している <input type="checkbox"/> 事業にはNPO、ボランティア団体等が参画している <input type="checkbox"/> 事業のプラン作りから市民参加を得る手段をとっている	施設の機能は十分発揮されており、成果指標は達成できる見込みである。

平成20年度の状況		
<input type="checkbox"/> 重点化している <input checked="" type="checkbox"/> 前年度と同様に継続している <input type="checkbox"/> 見直し継続している <input type="checkbox"/> 事業を縮小している	<input type="checkbox"/> 休止している <input type="checkbox"/> 他の事業と統合している <input type="checkbox"/> 平成19年度で廃止・完了	説明 施設の維持管理は前年と同様に行っている。
目標値	結果指標量	46000m3
	結果指標量	490
	成果指標量	BOD 10mg/l

総合評価		
処理は概ね良好に行われており、引き続き処理機能を十分発揮できるよう維持管理を行う。	評価区分 <A-E>	妥当性 A B C D E 有効性 効率性
	B	

平成21年度以降の方向性		
<input type="checkbox"/> さらに重点化する(行政資源を集中的に投入する) <input checked="" type="checkbox"/> 現状のまま継続する <input type="checkbox"/> 見直しのうえで継続する	<input type="checkbox"/> 事業の縮小を検討する <input type="checkbox"/> 休止・廃止を検討する <input type="checkbox"/> 他の事業と統合を検討する	<input type="checkbox"/> 平成20年度で廃止・完了

平成21年度以降の改善事項			
評価の視点	改善内容	改善時期	改善により期待される効果